

熊本大学広報誌

# 熊大通信

vol. 63  
2017 WINTER

特集II

リポート 熊大と熊本地震  
熊本の文化財を救え！  
vol.2

特集I

研究をカタチに！  
熊大の研究開発が  
世界を変える



Takumi, M.



# 熊大通信

vol. 63  
2017 WINTER

## CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 研究をカタチに！  
熊大の研究開発が世界を変える
- 11 研究室探訪 ポロポロになるまで読み共感できた時、  
文学は、自分の生きる力になる  
文学部文学科欧米言語文学コース英語英米文学研究室 永尾 悟 准教授
- 13 特集Ⅱ リポート  
熊大と熊本地震  
vol.2  
熊本の文化財を救え！
- 15 国際交流 留学現地レポート
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

### 旅する熊大／

熊本大学 書道部

総勢46名の書道部。毎年パフォーマンスを行っている紫熊祭では、今年も力強いパフォーマンスを披露した。紫熊祭以外に、熊本市内のイベントにも多数参加している。今後は「普段書道に触れる機会がない人にも興味を持ってもらえるような作品を作りたい」。日本の伝統文化である書道の魅力を広めていく、という目標に向かい、日々練習に励んでいる。本パフォーマンスで披露したのは、熊本県出身3人組ロックバンド「WANIMA」による「ともに」の歌詞の一部など。

### 熊本大学広報誌 熊大通信

\*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学  
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1  
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007  
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会  
大日方信春／委員長 法学部  
大野 龍浩／文学部  
松永 拓己／教育学部  
岡本 洋一／大学院法曹養成研究科  
光永 正治／大学院先端科学研究部  
緒方 公一／大学院先端科学研究部  
日浦 瑞枝／大学院生命科学研究部  
首藤 剛／大学院生命科学研究部  
田中 尚人／政策創造研究教育センター  
後藤 正三／マーケティング推進部広報戦略室

【制作】 株式会社 談  
表紙／【原画】松永 拓己／教育学部 准教授  
特集Ⅰで紹介をした研究者。  
手前から、中瀬教授、河村教授、松田准教授。



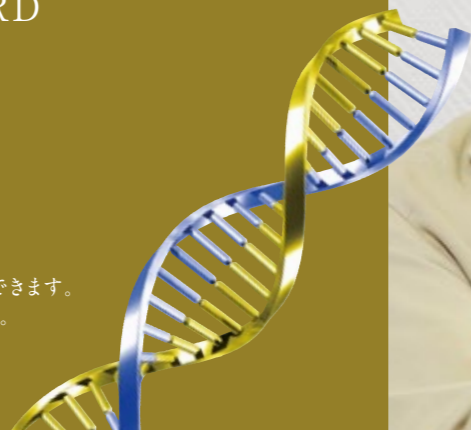
## 「遺伝子改変マウス」の保存と供給で 世界の研究者を支える

～動物資源開発研究施設CARD

生命資源研究・支援センター  
動物資源開発研究施設(CARD)・資源開発分野

なかがた なおみ  
中潟 直己 教授

マウスを使うことでヒトの病気の解明が進みます。  
大学の基本は研究であり、  
そこから利益が上がればそれでまた研究に活用することができます。  
生殖工学は日進月歩ですから、のんびりしてはいられません。



## 特集 I 研究をカタチに!

# 熊大の研究開発が 世界を変える

日進月歩を遂げるさまざまな分野の研究、技術開発。  
その背景には、大学で行われる地道な研究があります。  
研究成果は、現代社会がかかえる課題を解決するために  
活かされています。

さまざまな病態の解明、治療法の開発研究  
のため、今やなくてはならないのが遺伝子改  
変マウス。熊本大学は、遺伝子改変マウスを  
供給するバンクシステムCARD\*を運営して  
います。バンクシステムにより、世界の研究者  
たちは、自身で遺伝子改変マウスをつくり出  
すという手間を掛けることなく、それぞれの  
研究に専念することができます。CARDは、  
効率的で持続可能な研究環境の創造に一役  
買っているのです。

実用金属で最も軽いマグネシウムの合金  
は、航空機・自動車からスポーツ用品まで材  
料としてひっぱりだこ。マグネシウムの弱点は  
熱に弱いことですが、その弱点を世界で初め  
て克服したのも、熊本大学の研究者です。材  
料が軽くなることで省エネにつながり維持費  
も下がります。世界最高の強度と難燃性を誇

る「KUMADAI耐熱マグネシウム合金」は、  
コスト面でも環境面でも、これからの産業界  
を支える合金の一つといえます。

さらに暮らしに欠かせない自動車分野で  
は、EVバス、EVトラックなどバッテリー電池  
で走る大型車の研究開発が進んでいます。  
CO<sub>2</sub>削減は今や世界的課題であり、大型車  
のEV化はその課題に応えるもの。すでに走  
行実験に着手しており、排ガスを出さないク  
リーンな大型車が走る日が遠からずやってく  
るのです。

これらの優れた研究を継続し発展させるた  
めには、後に続く研究者の育成が欠かせませ  
ん。優れた研究者のもとで若き研究者たちが  
育っていくことで、熊本大学の知は、社会へ  
と還元されていきます。

※CARDとは…

遺伝子改変マウスを供給するバンクシステム「生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設  
(Center for Animal Resources and Development)」の略称です。

## 金属が軽くなれば、 世の中が変わる ～KUMADAIマグネシウム合金

先進マグネシウム国際研究センター

かわむら よしひと  
河村 能人 教授

学生時代に知の最先端を走ることを経験したことがない技術者は、  
産業の最先端を走ることはできない、と言われます。  
学生の皆さんにはここで、  
最先端に触れてほしいと思っています。



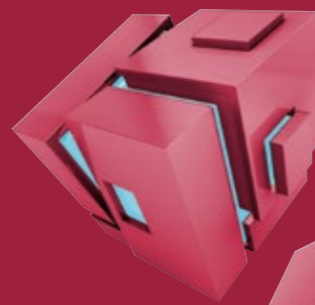
## バスやトラックを電気自動車にして 環境保護と社会貢献を

～大型車用EVシステム技術開発プロジェクト

大学院先端科学研究部  
工学部附属グローバルものづくり教育センター

まつだ としろう  
松田 俊郎 准教授

学生は失敗をしても、  
同じ失敗を繰り返さない工夫を身に付けることができます。  
このように先に進む能力を身に付けた熊大生は、  
どの大学の学生にも負けたいと感じます。  
研究室の学生は力を付けていますよ。







# 研究をカタチに!

## 「遺伝子改変マウス」の保存と供給で世界の研究者を支える ～動物資源開発研究施設CARD

医療創薬研究に欠かせない遺伝子改変マウスを、世界中の研究者に供給する動物資源開発研究施設「CARD」。中潟直己教授が世界で初めて確立したマウスの受精卵や精子の凍結技術をもとに、医療の基礎研究から創薬へと熊本大学の役割は発展していきます。



3100系統を保有、500万匹を作製可能

遺伝子改変マウスとは、人の遺伝子や病態の解明、治療法の開発研究などに使うため、人為的に遺伝子が操作されたマウスのことです。医療研究に欠かせない動物資源ですが、研究者が個別につくり飼育すれば時間やコストがかかります。加えて、同じ系統、同じ日齢のマウスが大量に必要な実験の場合、研究者自身でマウスを作製するには限界があります。

そんなジレンマを解消するのが、遺伝子改変マウスのバンクシステム。運営する施設は世界中にあり、日本にある2カ所のうちのひとつが熊本大学のCARDです。世界にある約5万の遺伝子改変マウスの系統数のうち、6%にあたる約3千系統を保有。といっても、すべてを個体で飼育しているわけではありません。「CARDでは、各地の研究者がつくった遺伝子改変マウスの受精卵や精子を収集し凍結保存しています。データを公開し、研究者からの依頼に応じて受精卵、精子、または子どもをつくって供給するシステムです。現在凍結保存している受精卵と精子からは、約5百万匹のマウスが作製可能です」。こう語るのが、CARDを率いる中潟直己教授。この大規模なバンクシステムの運営を支える受精卵の凍結技術を世界で初めて確立したのが中潟教授で、生殖工学において、CARDとともに世界中に名前を知られています。受精卵の凍結保存技術が確立されたことでマウスの飼育コストが削減され、遺伝子操作されたマウスが逃げ出し生態系に影響を与えるリスクも減少しただけでなく、膨大な数の遺伝子改変マウスの系統保存が可能になりました。

### 世界中を飛び回り、技術普及にも注力

中潟教授はまた、新鮮精子や凍結した受精卵を融解して一般的な冷蔵輸送で送ることが出来る機材も開発しました。「凍結方法が違えば、融解方法も違います。送った先で融解がうまくいかないと意味がありませんから」と中潟教授。融解した受精卵は冷蔵状態で2、3日は保存可能で、凍結受精卵や凍結精子を送る場合よりコストも安くになります。国内はもちろんすでに海外にもこの方法で送り、送付先ではきちんと子どもが生まれているそうです。

もちろん、中潟教授らは技術そのものの普及にも力を注いでいます。CARDチームは毎年世界中を飛び回って講習会を開催。2013年にはスペイン、2014年にはアメリカ。2016年はフランスのパスツール研究所で予定していましたが、熊本大地震が発生していったん中止したのですが、強い要望で10月に開催しました。地震の際は、世界中から数え切れないほどメールが届き、CARDにはがんばってほしい、この言葉をもらいました。現在、欧米やアジアの12の大学や研究機関と部局間交流協定を締結しているCARD。その技術はすでに「グローバルスタンダード」となりつつあります。

### 実験動物への福祉にも貢献

受精卵だけでなく、精子の凍結保存技術を開発したのも中潟教授です。「1匹のオスのマウスからは約1千万から3千万の精子がとれるため、保存することで使用するマウスの数を減らせます。また、通常の過剰排卵誘起法で1匹のメスからとれる卵子は約20個ですが、約100個を得られる『超過剰排卵誘起法』も開発しました。これで、使用するメスの数も減らせます。研究に使う実験動物については、使用数の削減や苦痛の軽減など、愛護・福祉の観点が求められています。この点でも意義深い方法だと考えています」。中潟教授は「このほか、受精率を上げるための精子の保存液や受精卵の培養液も開発。これによって、すべての系統において90%の受精率が得られるようになりました」。

CARDが研究者から寄託を受ける受精卵や精子の凍結保存は無償で、データを公開しないプライベート的な保存の場合は有償で引き受けています。また、中潟教授らが開発したさまざまな技術や機材はすべて特許を取得し販売。その売り上げの一部を新規技術開発の研究にあてることで世界中の研究者を支えています。

### 遺伝子改変マウスとは

大きく分けると、ある特定の遺伝子を挿入する遺伝子導入マウスと、遺伝子破壊マウスがあります。研究にマウスが使われるのは、妊娠期間が短く、多産で成長も早いこと、そして、約80%の遺伝子が人と同じであることが理由です。

### 最先端を走り、創薬イノベーションを推進

私の最終目標は「本当に効く」薬を創ること。中潟教授が確立された遺伝子改変マウス作製技術を活用した創薬を目指しています。私を取りまとめる「マウスバンク機能の拡充による創薬イノベーションの迅速化」は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の「平成28年度創薬基盤推進研究事業」に採択されました。この事業が各研究所で進められる遺伝子改変マウスを使った医学研究を統合する役割を果たすと考えています。



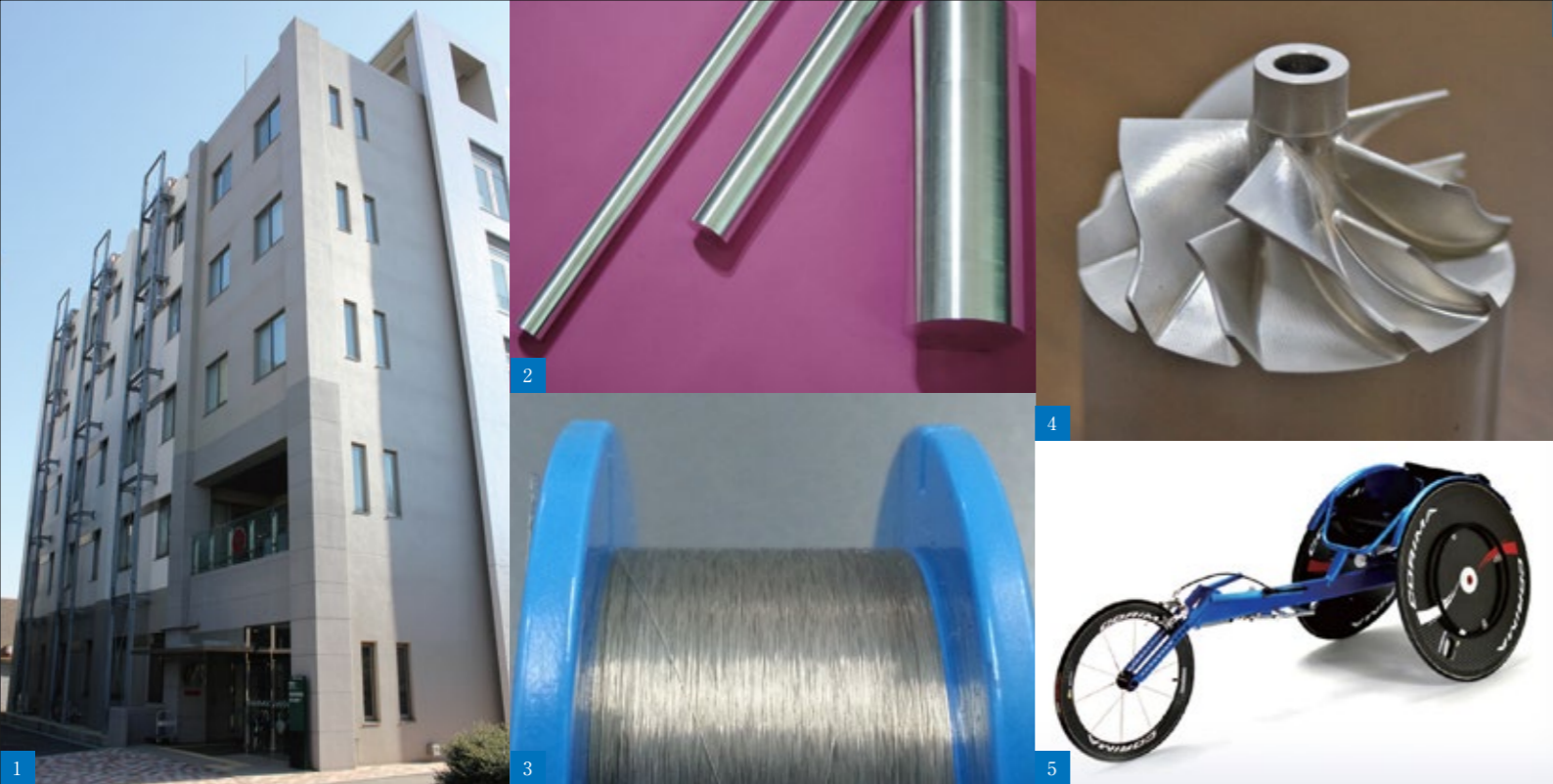
生命資源研究・支援センター 動物資源開発研究施設(CARD) 資源開発分野 竹尾 透 講師



生命資源研究・支援センター 動物資源開発研究施設(CARD)・資源開発分野 中潟 直己 教授

北里大学大学院修士課程を修了後、順天堂大学医学部、日本生物科学研究所、東大医科学研究所などを経て、1998年6月熊本大学動物資源開発研究センター(現 熊本大学生命資源研究・支援センター)資源開発分野 教授に就任。研究テーマは、一貫して生殖工学、特にマウスの受精卵・精子の凍結保存、マウスバンクシステムの構築。





1.先進マグネシウム国際研究センター 2.KUMADAI不燃マグネシウム合金 3.細線化されたマグネシウム合金ワイヤー。日本人の髪の毛の半分の細さ程度の、直径0.05mm 4.生産検討段階に入っている自動車のコンプレッサーホイール 5.市販が開始されている陸上競技用車いす

研究をカタチに!

# 金属が軽くなれば、世の中が変わる

## ~KUMADAIマグネシウム合金

实用金属の中でもっとも軽量ながら、強度や耐熱性が低いという弱点があるマグネシウム。強いマグネシウムは、軽量のため省エネ・コスト削減につながる産業界にとって垂涎の素材。すでに、弱点を克服したKUMADAIマグネシウム合金の実用化が進んでいます。



### 一生に一度あるかないかの大発見

航空機や自動車、家電製品、医療機器など、私たちの生活にかかわるさまざまなものに使われる金属。金属の軽さや強さ、耐熱性が向上すれば、私たちの生活はさらに良い方向へ変わります。実用金属の中でもっとも軽いマグネシウムは、これまで世界中で、弱点である強さと耐熱性の低さを克服するための研究が進められてきました。

河村能人教授は、2000年に熊本大学に着任後、マグネシウムの研究を開始。マグネシウムとさまざまな元素を配合する実験を繰り返したのち、2001年、ついに、それまでの高強度マグネシウムをはるかに超えた世界最高の強さと耐熱性を備えた「KUMADAI耐熱マグネシウム合金」を生み出します。これは、河村教授いわく「研究者として一生に一度出合えれば幸せ」という発見でした。研究は進み、2012年にはさらに、発火しやうという弱点も克服した「KUMADAI不燃マグネシウム合金」も開発。現在すでに実用化されたもの、実用化に向けたものなど、さまざまな研究と開発が進行しています。

### その活用は、大空にも人の体の中にも

2014年10月、熊本大学は米国の航空機メーカー・ボーイング社との間で、KUMADAIマグネシウム合金に関する共同研究協定を締結しました。米国防空局(FAA)では、発火しやうという理由から、航空機部材へのマグネシウムの使用を禁止しています。しかし、KUMADAIマグネシウム合金は、FAAの燃焼試験において航空機にも使用できるほどの難燃性を持つことが証明されています。現在は、2011年に開

### 実用化は、基礎研究があつてこそ

KUMADAIマグネシウム合金を使い、すでに実用化され販売されているものもあります。その一つが熊本企業の不二ライトメタル(株)、アドバンフィット(株)、そして熊本機能病院のソーシャルワーカーで車いすマラソン先駆者の山本行文(やまもとゆづる)さんが共同開発した陸上競技用車いす。競技用車いすにも軽さと強さは重要で、試行錯誤の末ついに製品化に成功しました。2020年の東京パラリンピックでの利用にも期待が寄せられます。そのほか、締結ネジ、肢装具は市販を開始、自動車部品のエンジンピストン、コンプレッサーホイールは、生産検討段階に入っています。

KUMADAIマグネシウム合金が広く利用される日が来れば、輸送機器の軽量化による燃費の向上や二酸化炭素排出量の削減につながります。医療機器への応用も、健康寿命の増進や高齢化に伴う医療費の削減を可能にします。「私たちは材料研究者ですから、いいものが見つかれば社会へ、という応用を常に頭の隅において研究をしています。」

しかしそれは、基礎研究という基礎があつてこそ可能。だからこそ、応用だけでなく、KUMADAIマグネシウム合金の強化の源である原子配列構造を調べる基礎研究も徹底的に行っています」と河村教授。KUMADAIマグネシウム合金が「軽く」してくれる世の中がやってくる日が楽しみです。



先進マグネシウム国際研究センター  
河村能人 教授

名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程を修了後、日本電装(株)(現(株)デンソー)研究開発部研究員。東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了後、東北大学金属材料研究所助手・助教授。2000年より熊本大学工学部助教授、その後同学部教授。2011年熊本大学先進マグネシウム国際研究センターセンター長。

安心して使ってもらうため  
基礎研究を大切にしています

実用化が進むKUMADAIマグネシウム合金。この新材料を安心して使ってもらうためには、「どうして強いのか?どうやって出来るのか?」といった単純かつ本質的な問いに答えられなければなりません。研究室では、大学院生が中心となつて、金属組織形成機構や高強度発現機構の解明といった基礎研究に取り組んでいます。



先進マグネシウム国際研究センター  
やまざき みちあき 山崎倫昭 准教授(左端)と基礎研究を担う学生諸氏

設された先進マグネシウム国際研究センターのセンター長を務める河村教授。日本の経済産業省が進める「次世代航空機用構造部材創製・加工技術開発プロジェクト」の中にもKUMADAIマグネシウム合金を使った「マグネシウム合金開発と航空機への適用研究」が含まれ、ボーイング社との連携と平行して開発が進められています。話します。

もつひとつ開発が期待されているのが医療機器です。「マグネシウムは人体に安全で、しかも人体に吸収されます。ヨーロッパではすでに、血栓ができた際、血管内に入れるステントという医療機器にマグネシウムを使う臨床研究が進んでいます。しかしこれも、強さが弱いとステントを厚くしなければならなくなり、再狭窄や血栓症などの問題が発生します。そこで、強度に優れたKUMADAIマグネシウム合金でステントの開発を進めています」。熊本大学は、最先端の伸線技術を持つ東邦金属(株)と、線径の細さで世界記録を大きく更新する極細ワイヤーも開発。髪の毛の約半分の細さというマグネシウム製のワイヤーは、縫合糸や医療用ステープラーの針などに応用が可能です。「2015年には、センターに生体機能評価分野が新設されました。本学の医学部や国内外の著名な先生方に参加頂いており、KUMADAIマグネシウム合金の医療機器開発は、実用に向けて着実に進んでいます」。

KUMADAIマグネシウム合金とは

マグネシウムにはほかの元素を混ぜてつくれるのがマグネシウム合金。従来のは、軽量ながら強度や耐熱性が不十分でしたが、その弱点を克服したのがKUMADAIマグネシウム合金です。



■EVの性能・運用の計画



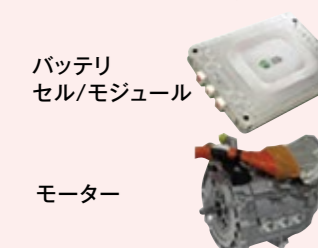
■大型EV車両設計製造技術



■大型EV生産  
(いろいろな車両製造会社を  
横断した生産体制)



■乗用車EVで大量生産する  
バッテリー、モーター等活用



■大容量バッテリーシステム(複数並列パック)



■高出力モーターシステム



■補機駆動システム



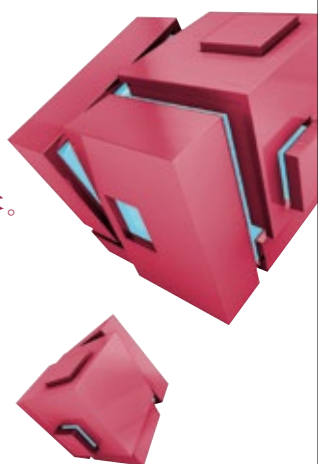
1.EVバス環境省プロジェクト概要図 2.学生がテーマを選び企画・構想・設計・試作・評価を行った「スイカ運搬機」 3.松田研究室のメンバー



研究をカタチに!

バスやトラックを電気自動車にして  
環境保護と社会貢献を  
～大型車用EVシステム技術開発プロジェクト

大型車の電気自動車(EV)化では、中国や台湾などに大きく遅れをとっている日本。  
一方で大型車のEV化は、CO<sub>2</sub>の排出量を削減し、  
地方のバス会社の赤字削減にも貢献できます。  
この大型車のEVシステム技術開発を推進しているのが、  
大学院先端科学研究部の松田俊郎准教授です。



環境省の事業にも採択  
多くの企業と開発を推進

日本は普及率が高い乗用車のEV化においては先進国ですがバスやトラックなどの大型車のEV化においては後進国。中国が2015年に8万台を生産するなど、アジア近隣諸国でEVバスの導入が進んでいる状況と比べると、現在日本国内を走っているEVバスはわずか40例ほど。近年はディーゼル車の排気ガスもクリーンになってきています。しかし、熊本のような地方を走る路線バスでは、排気ガス規制が厳しい首都圏では走れなくなったものを譲り受けて走っていることが多く、より排気ガスを出しているという問題もあります。

そんな大型車における環境対応の遅れを取り戻すべく、大型車のEVシステム技術開発に携わっているのが松田俊郎准教授。松田准教授が代表を務める「EVバス・トラックの普及拡大を可能とする大型車用EVシステム技術開発プロジェクト」は、環境省の「平成28年度CO<sub>2</sub>排出削減対策強化誘導型技術開発実証事業」に採択されています。プロジェクトの技術開発代表者は熊本大学で、交通政策対応に熊本県、実証実験に九州産交バス(株)が参加。車両設計製造開発は熊本県大津町の(株)イズミ車体製作所などが担当するほか、電気自動車である日産リーフのバッテリーを製作している企業などが共同実施者に名を連ねています。

2018年には生産準備を開始

松田准教授は大型車のEV化が進まない理由を、「EVバスの価格が高いことと、航続距離が短く実用性が低いこと」と話します。そこで松田准教授が着手したのが、すでにある電気自動車の乗用車に搭載され

30年のものづくり経験を  
丸ごと学生たちに伝授

これほどの短期間で実用化が計画できる理由の一つに、松田准教授の経歴があります。松田准教授は、日産自動車(株)に30年間勤務し、自動車の電子制御や電気自動車の開発に携わり、245件もの特許を取得。2013年に熊本大学に着任後は、「ものづくり」の最先端を走り続けてきた経験を丸ごと熊本大生たちに伝えようと奮闘しています。「研究活動に加えて、ほかにないものづくり教育を構築しています。これは開発テーマの設定から企画・構想・設計・製作、発表まで全ての工程を学生にやらせて鍛え、将来のリーダー、アントレプレナー(企業家、起業家)になる人材を育成する教育プログラムです」。

その成果が表れたひとつが、熊大生たちによる「電動モヒリティ技術による農業の電動化」プロジェクト。学生たちは農業を一から学び、生産者と交流し、企業ともやり取りしてスイカの電動運搬機を開発しました。「熊本県は農業県ですから、工学の知識で農業に何か貢献できないかと学生たちに考えさせました。彼らは農業体験からスイカ収穫の苦労を知り、生産者ごとに考えが違っても知りました。また、企業や社会人と技術情報をやり取りすることにも苦労をしつつ、同時に多くのことを学んだようです」。このスイカ電動運搬機も実用化が検討されています。役に立つもの、売れるもの。企業が行うような製品開



大学院先端科学研究部  
工学部附属グローバルものづくり教育センター  
松田 俊郎 准教授

熊本市出身。2012年まで日産自動車株式会社に勤務。2005年からは、電気自動車の開発に携わる。245件の特許を取得。日経BP技術賞、市村産業賞受賞。2013年より熊本大学大学院自然科学研究科(現 熊本大学大学院先端科学研究部)准教授。専門領域は、電気自動車技術、自動車工学、先端ものづくり教育(技術、コンベンション)。



大学院自然科学研究科  
博士前期課程2年  
ふくなが りゅうた  
福永 龍太さん

開発を一から学び、「売れるもの」づくりが魅力  
もともと、技術をだれかの役に立てるようになりたいと思っていました。熊本は農業県なので農業に役立つもの、ということでした。スイカの運搬機を試作。次は、耕耘機や防除機など多様な機能の一つにした多用用途農機具開発に取り組みことになっています。実際の企業のものづくりに、同じように、世の中で売れる物を作るのが、松田先生の魅力です。

発を、松田准教授のもとで学んでいる熊大生たちの今後の活躍も楽しみです。

大型車EVシステム技術とは  
既存の乗用車用リチウム電池とモーターを活用しバスやトラックなどを電気自動車(EV)化する技術。大量生産することで価格を抑え大型車のEV化を促進し、企業の経費削減や環境保護を実現します。

ているリチウム電池とモーター技術を活用して、バスやトラックに使える大型車用のEVシステムを構築するという、新しい発想の画期的な技術開発です。「現在のEVバスの価格はディーゼル車に比べ6千万円ほど高いですが、乗用車の電気自動車技術を活用し、ディーゼル車との価格差を1千万円とする目標を掲げています」。

また、大型車は、メーカーで作られたあと、バスやトラックとしての機能をつけるため日本自動車体工業会の工場に入ってから納車されることに着目。「全国にあるその工場にEVバスを製造するという、自動車会社の枠を超えた生産体制を構築し、EVバス・トラックの普及拡大を目指します。EVバスが市街地を走るようになれば排気ガスがなくなり、CO<sub>2</sub>排出が減ります。また、燃費が向上しバス会社の経営にも貢献しますし、EVバス・トラックを製作する事業が全国で展開できるため地方における産業振興にもつながります」と松田准教授。2017年度には実際にEVバスが路線を走る実証実験が行われ、2018年度に開発を完了、生産準備が始まる予定となっています。



# 研究室探訪



永尾准教授と米文学演習を受講する学生たち

永尾准教授が研究対象とする  
ウィリアム・フォークナーが  
住んでいた家

(アメリカ ミシシッピ州オックスフォード)



ポロポロになるまで読み共感できた時、  
文学は、自分の生きる力になる

## 「闘いの文学」とも言える 20世紀のアメリカ南部文学

文学部文学科欧米言語文学コース英語英米文学研究室には4人の先生が在籍。英語学、英米の小説や詩などをテーマに研究を行っています。今回は、永尾准教授にお話を伺いました。

永尾准教授のテーマは、20世紀のアメリカ南部文学とホワイトネス(白人であること)。ウィリアム・フォークナーの作品を中心に研究しています。「アメリカ南部は奴隷として連れてこられた黒人が多く、彼らを労働力としてコントロールしていたのが白人です。南北戦争後、奴隷が解放されると白人の立場も変化。20世紀前半のアメリカ文学にはその状況が詳しく書かれています。白人作家が、黒人と黒人を見る自らの存在をどのように考えているか、そして南部にル

ソを持つ黒人作家が、白人との関係を通して自らのアイデンティティをどう見ているかを、作品から読み解きます。人種問題が今も続く理由を探るヒントとして、古い文学における人種問題を捉えていく必要があると永尾准教授。「アメリカの特に有色人種は、社会的権利や労働環境が奪われる中、書くことで自分たちの存在意義を表明する必要があった。生きること常に関わっているのがアメリカ文学です」。読む人も、闘いの文学とも言える作品を自らの生きる力に変えようとする、そんな「生活感」があるところが好きだと、その魅力を話してくれました。

**作品への理解には、  
検証素材や人との対話も不可欠**  
授業では日本語は使わず、英語を英語で解釈

するのが基本。教員と学生のやり取りもほぼ英語です。高校卒業の英語力で原書を読む力は備わっており、教員はそれを手助けするだけだと永尾准教授。もちろん、きちんと理解することは必要で、そのためには論議も不可欠です。時代背景やその作家のインタビュー記事、手紙、伝記などの素材を集めて検証します。「読書とは一人静かに座って読むだけではなく、作品を理解するためにほかの研究者や友人との対話、議論も必要。英文研の学生の結びつきは、本を介してつくられていくことに特徴があります」。

文学は決して自分の問いに答えてはくれませんが、それでも、登場人物の心情を想像しながら読み進めていく中で、登場人物がどう考えているかが分かったり、共感できることが文学の楽しさだと永尾准教授は話します。「書籍は神棚に上げておくものではなく、むしろ引つ張りおろしてポロポロになるまで読んでほしいもの。そして、日本語とは違う言語でものごとを考えることで、社会や日常に対する複眼的な視点を持つてほしいですね。豊かな表現力も身につきます。言葉は人間力であり、生きる支えになるはずですよ」。

## 密着！英語英米文学研究室



2015年5月新歓コンパ  
学生が企画する研究室行事の一つ。英文研に来たばかりの学生もコンパ後には先輩や教員たちとすっかり打ち解けています。



熊大英文学会  
英文研の同窓会が研究団体。年に1回、様々な年代の卒業生からの学生、教員までが一室に集まります。世代を超えて、交流をすることができる貴重な機会です。

## lab's data

文学科  
欧米言語文学コース  
英語英米文学研究室



□研究テーマ  
大野 龍浩 教授：英国小説、英文学、文学批評  
ギルバート、リチャード 教授：現代米詩、  
日米俳句比較研究  
隈元 貞広 教授：英語史、中世英詩  
永尾 悟 准教授：20世紀アメリカ小説

□修論・卒論テーマ  
対象作家  
米国：トルーマン・カポーティ、  
アーネスト・ヘミングウェイ、  
ナサニエル・ホーソーン  
英国：フロンテ姉妹、ジェイン・オースティン、  
オスカー・ワイルド

□メンバー  
上記4教員に加えて  
文学科4年17人、文学科3年11人

## Interview



文学部文学科4年 木下 恭輔さん(左)

英語は、話すことの上達に特化すれば手っ取り早いかも知れませんが、文学作品を読むことで、より自分のものにできると考えました。ただ読むだけではなく、その言葉を使った背景や何を伝えようとしているのか、作者の意図をつかめた時に喜びを感じます。自分の考えを、いろいろな角度から見る手助けをしてくださるのが永尾先生。経験に基づいたアドバイスは、先生というより先輩のような存在です。予習や課題も大変でしたが、逃げずに取り組めたことが今後の糧になると思います。

文学部文学科3年 木村 優作さん(右)

日本語以外の言語で本を読んでいるとどう自分になっているような気がすることもあり、「こんな考え方をしている自分がいる」と気づいた時、楽しいと感じます。現在読んでいるのはトルーマン・カポーティの「遠い声遠い部屋」。とても難しいと言われましたが、一目ぼれのようにはまり、がんばって読んでいます。学生のうちはできることに限界がありますが、永尾先生は、私たちがやりたいことと、やれる一番高い部分をうまくすり合わせてやらせてくださるので、ありがたいです。



# 熊本の文化財を救え!

熊本大学だからこそできる、  
息の長い支援  
～熊本城等被災文化財の  
復旧・活用支援プロジェクト

熊本地震では、熊本城や通潤橋など熊本の歴史や文化を知ることができる建造物が大きな被害を受けています。そんな建造物をはじめ、工芸や書物など、熊本の歴史を今に伝える貴重な文化財を復旧し、保存と活用の仕組みを研究するのが「熊本城等被災文化財の復旧・活用支援プロジェクト」です。

## 大学が持つ強みで文化財を救う

このプロジェクトには、熊本城をはじめ二俣橋(美里町)や釜尾古墳(熊本市)など建造物の復旧支援、歴史的環境や名勝の保全支援、文化歴史的資料レスキュー、埋蔵文化財レスキューという4つのグループがあり、それぞれ、文学部、大学院先端科学研究部、政策創造研究教育センターの教員らで構成されています。



大学院先端科学研究部  
山尾 敏孝 教授

ます。この中で、建造物の復旧支援に携わっているのが大学院先端科学研究部の山尾敏孝教授。「文化財の復旧は、その文化的価値を損なわずに行う必要があります。元々の姿に戻すまでに約20年と言われています。そんな長い期間継続して支援できるのが大学の強みで、今回の地震の被害と復旧の記録を残し、将来に情報を発信することにも大学がかかわるほうがよいと考えます」。もちろん、熊本大学が持つ知見や技術も役立ちます。「私たちの研究の環境にもなりますので、復旧に関する学外の委員会や部会も支援させていただいています」と山尾教授。また、文化的価値がありながら文化財保護法対象の文化財に指定されていないため、支援を受けにくい建造物や民家に眠る文化財の復旧や保全に対しても、熊本大学の力に期待が寄せられています。



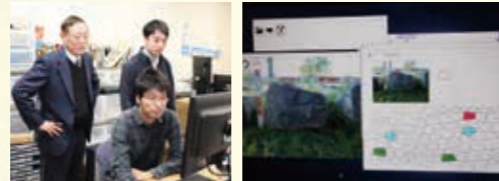
現地に入り調査・説明を行う山尾教授



復元のために並べられている熊本城の石垣の石

## 検討・議論・研修 一つひとつ重ねていく復旧

熊本城では、石垣の修復も大きな課題です。復旧にはまず、崩落した石一つひとつの形状をスキャンしてデータベース化。そのデータを使って積み戻していく場所のどこにどの石が合うのかあらかじめ候補を決めておきます。このマッチングシステムによ



マッチングシステムで作業を行う上瀬剛助教(右前)、内村圭一教授(左)と学生の佐藤健仁朗さん(右奥)

て、石工技術者の手間を少なくできますが、それでも時間はかかります。その理由は、「ただ元に戻せばいいというわけではなく、将来のために、石垣が壊れたメカニズムを知っておく必要があります」。加えて、「元に戻すといつても、壊れる前の姿が江戸時代末

期や明治初めの姿なのか。それも検討が必要だし、その建造物を造った古い技術も含めたものが文化的な価値があるので、安全に残す議論も不可欠です」と山尾教授。また、石垣修復に携わる石工技術者の育成も必要。「文化庁や石工技術者、歴史研究者も一緒にいうシンポジウムも予定しています。そういった研修や技術者の育成も、大学の役割です」。

山尾教授はまた、県内の石橋の被災調査と復旧にも力を注いでおり、学生も伴い一つひとつ、地道な現地調査を行っています。「膨大な労力や時間がかかる文化財の修復にかかわることができる人材がいるのも、熊本大学です。文化財の修復は大変で大切な作業だからこそ、地元と大学として長く支援を続けたいと思っています」。



南阿蘇村の銭瓶橋

## 熊本大学学園祭「紫熊祭」 熊本地震復興企画

今年度は、11月4日～6日の3日間、熊本地震からの復興をテーマに行われました。



右 / 文学部総合人間学科1年 宮園 葉月さん  
中央 / 教育学部小学校教員養成課程3年 菊池 豊さん  
左 / 理学部理学科1年 藤原 美幸さん

## 被災地の農業の力に！ 元気食堂

元気食堂は、紫熊祭実行委員会が企画・運営した店舗です。熊本地震で甚大な被害を受けた益城町の農家やJAから米や野菜を購入し、お茶漬け、馬すじ煮込み、コロッケを調理し販売。1日約100食を準備して完売し、3日間の売り上げ約10万円は被災地へ寄付されました。会計を担当した教育学部3年の菊池豊さんは、「生産者の方は、今年は米作りをあきらめておられたのですが、夏の草取りなどは実行委員15人くらいでお手伝いにも行きました。熊本大学から新しい熊本を発信していけるよう、後輩たちにもこの取り組みをつなげていってほしいと思います」と話してくれました。



紫熊祭実行委員会として初めて運営した元気食堂

## 暖かな灯と応援メッセージ キャンドルナイト〜復興への灯火〜

紫熊祭を訪れた親子連れ、地域の幼稚園児や熊大1年生から募った約300のメッセージが暖かな灯に浮かび上がりました。企画運営に携わった文学部1年の宮園葉月さんは、「灯りを楽しみ、さまざまな思いをめぐらせてほしいと企画しました。地域とのつながりもできたので、これからも積極的に地域の方と交流を深めていきたいです」と話します。



会場を彩った灯り

## 力を合わせてアートを完成 皆で作るモザイクアート for the reconstruction of Kumamoto

紫熊祭来場者約1万人からのメッセージが集まったモザイクアートは、熊本県益城町にある熊本大学のまじきラボに展示されています。企画・運営に携わった理学部1年の藤原美幸さんは、「みんなの力を合わせると、こんな大きなものも作ることができると感じました。いろいろなメッセージの中から心に響くものが見つかって、被災された方が元気になってくれたらうれしいです」と思いを語ってくれました。



展示されているモザイクアート



熊本大学の交換留学

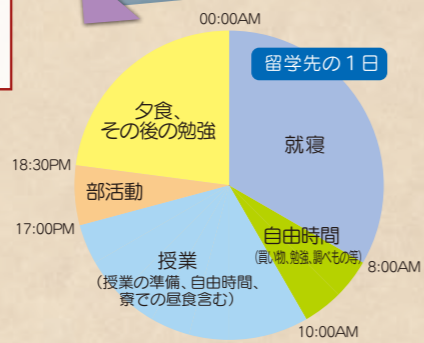
熊本大学では、学生交流協定を締結している海外の大学に、1年または半期留学する制度があります。留学中は熊本大学に授業料を納める必要はありませんが、留学先での入学金、授業料は必要ありません。また留学先で修得した単位を熊本大学の単位とすることができます。

[その他海外留学に関する情報]  
 交換留学制度  
 派遣先(学生交流協定校)一覧  
 短期海外研修プログラム  
 交換留学Q&A など

熊本大学 国際交流 検索

留学現地レポートは、WEBマガジン「KUMADAI NOW」でもご覧になれます。WEBマガジンでは、同じくダラム大学に留学中の堤はるなさんを紹介しています。

WEBマガジン 熊大なう。 検索



入学式後、ダラム大聖堂をバックに記念撮影



Matcha Tea Tasting というイベントではお点前を披露し、お茶を配りました



ダラム大聖堂近くにある植木アート イングリッシュガーデンを想起させます



週末にはたくさんの人や出店で賑わうダラムの街の中心部



長い歴史を感じる大聖堂でのダラム大学入学式



世界遺産のダラム大聖堂の中庭にて。ここは映画「ハリー・ポッター」の撮影地の一つでもあります

留学現地レポート

今号では熊本大学の交換留学制度を利用して、イギリス・ダラム大学に留学中の学生からの現地レポートを紹介します。

文学部コミュニケーション情報学科  
 3年 齋藤 友実  
 「留学先」イギリス・ダラム大学

留学した動機、きっかけは？

中学生の頃から、実力主義で自己アピールが盛んな欧米の文化に惹かれていました。高校2年のとき、ホームステイをしたニューヨークで、一人でタイムズスクエアの大きな広告塔を見上げたとき、五感すべてでニューヨークの空気を感じている気がして興奮で心が震えました。その時から「もっと長く異国に住んで多くの人と出会い、見聞を広めたい」と強く思うようになりました。

留学前の準備で大変だったことは？

まずは良い成績を保つことに努めました。特にテスト勉強に時間を費やしました。さらに大変だったのは語学の試験と勉強です。語学力を証明するために、県外での試験を十回近く受けました。振り返ると、留学のために生きていた一年だったと思います。

留学先では何を学んでいますか？

イギリスの教育制度や歴史について学んでいます。なかでも、公立、私立、Public School の3つの学校制度をもつという、独特な教育背景からイギリスのあり方を研究しています。加えて、英文学の授業や韓国

語の授業も受講しています。世界最高峰の文学研究を目の当たりにしたり、英語で外国語を学べたり、とても貴重な経験をしています。

授業以外(部活動等)の活動は？

3つの society に所属しています。1つ目はヨガ。2つ目は乗馬で、私は初心者でしたが、今では馬を走らせるようになりました。イギリスの伝統を感じる活動でもあります。3つ目は日本の society です。ダラムで勉強している日本人学生や、日本に興味のある学生に出会えました。ハロウィンパーティーでは、日本の幽霊話やイギリスのハロウィン料理で盛り上がりました。

留学先での生活は楽しいですか？

私は寮に入っています。寮では週に二回 Formal Dinner があります。参加者は正装してガウンを羽織って参加します。美味しい料理とおしゃべりを楽しんでいます。部屋は一人部屋なのでルームメートはいませんが、シャワー・トイレを共有するフラットメートとは仲良しです。アジアの他の国から来た学生とも仲良くなれました。休日には近くの街に電車やバスで出かけたり、旅行の計画をしたり。花火大会やハロウィンなど、イベントには積極的に参加するようにしています。

これから留学をしたいと思っている方にメッセージを！

留学をすると、世界がいかに広いか、どれだけ優秀な学生が海外にいるのか、身をもって分かります。イギリスの小説家、ジェフリー・ウイランズの言葉に、「You can never understand one language until you understand at least two. (少なくとも二つの言語を理解するまで、決して一つの言語も理解することはないだろう。)」というものがあります。世界から日本を見ることで新しい発見が必ずあります。自分の世界・視野を広げ、見聞を深めてみませんか？

国際交流レポート (9月・11月)

9/6~9/15 タイ、ラオスで海外短期調査及び研究交流プログラムを実施  
 大学院社会文化科学研究科と法学部の学生8名が、両国で大学を訪問し調査研究及び学生交流を行いました。また、国際自然保護連合(アジア地域事務所) JICAプロジェクト、現地日系企業等の視察を通じて多くの知見を得ました。



9/11~9/19 コンケン(タイ)の日本語教育研修に文学部生3名が参加

9/12~9/26 モンタナ州立大学(米国)の夏期語学セミナーに学生6名が参加

9/16 マサチューセッツ大学ボストン校(米国)表敬訪問  
 同大学パブリック・コラポレーション研究所マドハワ・ハリビティア副所長が高島和希副学長(国際交流担当)を表敬訪問しました。交流協定についての最終協議を行い、9月30日に大学間学術交流協定を締結しました。

9/16 ボルドー大学(フランス)副学長らが表敬訪問  
 大学間交流協定校である同大学からヴァンサン・ドゥセ副学長以下3名が原田志志学長を表敬訪問しました。同大学とは交流協定の他、ダブルディグリープログラム、国際共同研究などを通じて、教育研究両面で活発な交流が行われており、今後も更なる交流の発展が期待されます。

9/18~9/26 アイルランガ大学(インドネシア)の日本語教育研修に文学部生5名が参加

9/25~10/2 HIGOPプログラム、ネパールでインターンシップを実施  
 ネパール地震における復興対応の調査や熊本地震との比較を目的に、学生8名と教員2名が参加しました。現地の復興庁職員や大学生、JICA職員などとの交流を深めました。



10/22 熊本留學生交流推進会議主催 ウェルカムパーティーを開催  
 熊本県内の大学から220名を超える留學生及び日本人學生が参加し、様々な学生と交流を深めました。

11/3~11/9 教育学部、カセサート大学(タイ)で出前授業を実施  
 大学間交流協定校である同大学工学部生及び大学附属小学校の児童を対象に、教育学部の学生4名が出前授業(手作りロボット講座)を実施しました。制作したロボットを用いた対決を通して充実した交流が行われました。



11/4~11/5 「Joseki Global Cafe」を開催  
 大学生や高校生一般の参加者200名以上の参加により、夏目漱石の俳句の英語と日本語による音読、学生サークル提供の韓国家庭料理体験、日本の伝統的な遊び紹介など、国際交流を楽しみました。

11/7 「第6回留學生と保健学系学生との交流会」を九品寺キャンパスで開催  
 保健学系国際化推進委員会主催の本交流会は、本学留學生との交流と英会話力向上を目的に毎年開催され、留學生16名(14か国を含む学生・教職員合わせて63名)が参加しました。



11/17 バリ州知事が原田学長を表敬訪問  
 バリ州(インドネシア)よりマテバステイカ知事が10名の訪問団が原田学長を表敬訪問し、今後の教育研究交流について意見交換を行いました。また、本学のインドネシア人留學生とも懇談しました。

9月~11月 さくらサイエンスでアジアの学生を受け入れ  
 国立研究開発法人科学技術振興機構「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンス)」により、フィリピン、ベトナム、マレーシアから25名の学生、研究者等を薬学部及び大学院先端科学研究部で受け入れました。



**教育学部** 小学生の時憧れた教師の道  
今は子どもたちの指導にまい進



**三浦 寿史**  
Toshifumi MIURA

熊本大学教育学部  
附属中学校教諭  
教育学部技術科  
平成9年度卒  
大学院教育学研究科  
平成11年度修了

昭和50年生まれ、熊本県玉名市大浜町出身。熊本県立玉名高等学校卒業。熊本大学を経て熊本大学大学院へ。全国の先生方とつながりを持つことができ、未来を拓く子どもたちのために、わずかでも自分が影響できる職業にあることに生きがいを感じています。

**熊大のココがイイ！**  
熊大は大学の先生との連携がすばらしい！すべてがオープンマインド！

**被災地・熊本へ**

雨の日は雨の中を、風の日は風の中を、みんなとともに生きていく。

Jリーガー、パイロット…  
でも、幼い頃の夢を貫き教師に

高校の頃は、Jリーガーになりたい、パイロットになりたいなど右往左往しつつも、結果的に小さい頃からなりたかった教育者を目指すことに決めました。はっきり覚えているのは小学校2年生の時に学校の先生になりたいと憧れたこと。部活動のサッカーが好きで、サッカーを教える先生になることを夢見ていました。

**勉学と遊びと部活の  
バランスが絶妙だった大学時代**

大学時代は部活動のサッカーに明け暮れた日々ではありましたが、良き出会いと良き友に恵まれ、たくさん貴重な経験をさせていただきました。飲めない焼酎を覚えたのもこの頃でした。学科の先生とも親しく、遊びと部活と勉学のバランスが絶妙でした。大学院では、自分の車のエンジンを乗せ換えたり、一生分の本を読んだ気がします。

**熊本県選抜や国体の  
サッカー指導ができ感謝**

小中学校の教員をしながら、サッカー指導のご縁で、熊本県選抜や国体の指導にも携わることができ感謝しています。とにかくがむしゃらにやろうと、先輩先生方に教えていただきながらの日々でした。最近では、ようやく「学ぶように遊び、遊ぶように学ぶ」姿勢を持てるようになってきたかもしれません。

**文学部** 世界を知りたい、その思いを今につなげ  
ニューヨークでNPOスタッフとして活動



**渡部 由紀子**  
Yukiko WATANABE

NPO法人  
NY de Volunteer  
(アメリカ合衆国)  
文学部歴史学科  
平成16年度卒

昭和58年生まれ、熊本県熊本市出身。済々養高等学校卒業。熊大の仲間たちとは今でも年に一度日本に帰省した時に集まっています。趣味はNYに来てから始めたロッククライミング。

**熊大のココがイイ！**  
先生との距離が近い。卒業して10年以上たっても親交があります。

**被災地・熊本へ**

日本から遠く離れた国にも、熊本のことを想う人がたくさんいます。一歩ずつ前に進めるように、祈っています。

教育の分野で働いてみたい  
その思いが今に

正直、高校時代は授業についていくのに必死で、あまり将来の夢を真剣に考えたことはありませんでした。ただ、教育の分野で働いてみたいと考えてはいたので、回り道はしましたが、最終的には今につながっているのかなと思います。

**大学での学びから影響を受けた  
「世界の見方」**

「歴史を勉強する」ということが高校と大学ではまったく異なり、衝撃をうけました。物事の成り立ちや価値観の違いを学び、現在の自分の「世界の見方」は大学で学んだことに多分に影響を受けていると思います。素晴らしい先生や同級生にも恵まれて、とても楽しい学生生活でした。研究室旅行でフランスやアメリカ、いろんな国に行ったのも思い出深いです。

**NPO法人の副代表として  
子どもたちに日本の文化を伝える**

中学と高校の教職免許を取得しましたが、一度世間に出て世界を知ってみたいという思いから、教育とは全く関係のない繊維商社に就職し、貿易部に欧州を担当。その後、夫の転勤でNYに来てからは、NPO法人NY de Volunteerの副代表として、アメリカ人子どもたちに日本文化を教える活動を継続中。

**法学部** 理系にも文系にも興味  
適性を踏まえて法学の道へ



**前田 夢依**  
Yui MAEDA

熊本大学医学部附属病院  
事務部  
法学部法学科  
平成26年度卒

平成4年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立済々養高等学校卒業。趣味は読書と本屋巡り。

**熊大のココがイイ！**  
個性的な先生が多く、学生との距離が近いこと。

**被災地・熊本へ**

千里の道も一歩から。復興に向かって皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

自分の興味のあることを  
学べる大学に進学できた

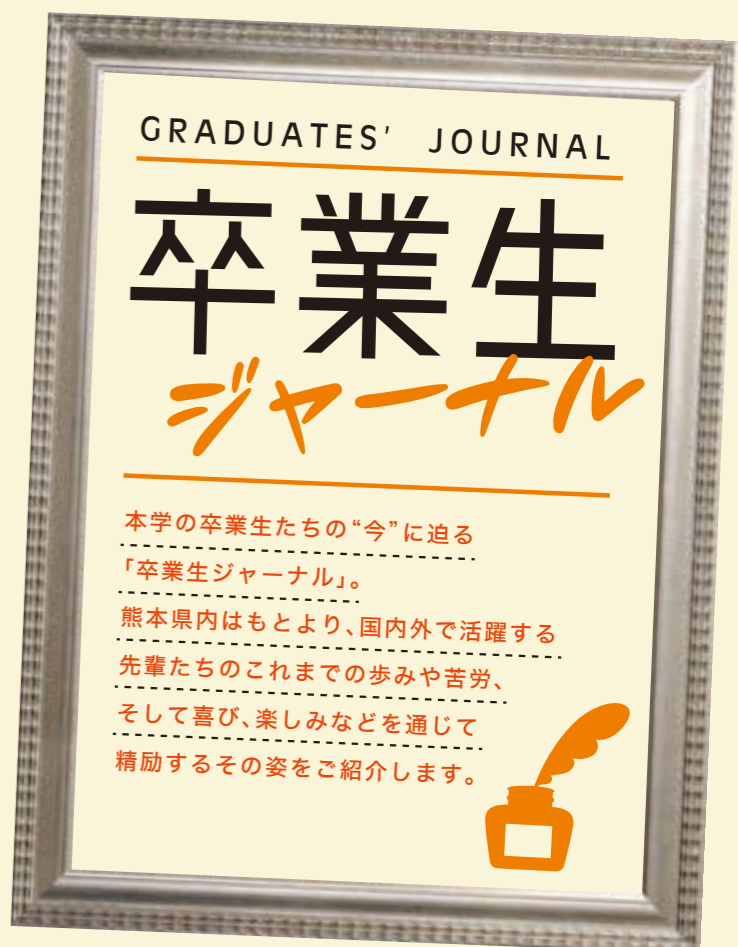
高校生の頃は化学に興味があり理系クラスでしたが、文系の歴史にも興味がありました。夢も漠然と、化学が学べる大学に進学できればいいという程度に考えていました。結局、自分の適性を踏まえて法学の道へ進むことになりましたが、就職に役立つことを学ぶのではなく、自分の興味があることを学べる大学に進みたいという希望は叶ったと思います。

**部活は合気道  
障がい者支援サークルにも所属**

入学時は人並みにバイトを頑張ろうかと考えていましたが、友人がきっかけで合気道部と聴覚障がい者支援サークルに入り、バイトを経験することはありませんでした。学部においても、入学時は存在さえ知らなかった分野を専攻しましたし、思いがけない出会いと学びにあふれた充実した日々でした。

**精一杯努力して  
病院の円滑な運営に貢献したい**

現在は熊本大学の職員として附属病院に勤め、医療機器の保守、病院内の清掃、印刷物の発注などの契約業務を担当しています。業務に必要なシステムや会計の知識など学ぶことも多く、また、日々様々な要望や問い合わせが来る中で、病院の円滑な運営に精一杯貢献できるよう努力しています。



GRADUATES' JOURNAL

卒業生  
ジャーナル

本学の卒業生たちの「今」に迫る

「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍する

先輩たちのこれまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じて

精励するその姿をご紹介します。



**工学部** 巨大タンカーの設計業務に従事  
完成を楽しみに日々奮闘中



**澤田 殊涼子**  
Mariko SAWADA

ジャパンマリンユナイテッド株式会社  
商船事業本部  
基本設計部電気グループ  
(東京都)

工学部情報電気電子工学科  
平成24年度卒  
平成2年生まれ、熊本県宇城市豊野町出身。熊本県立八代高等学校卒業。趣味は博物館巡り・献血(10回を達成しました)。

**熊大のココがイイ！**

キャンパス内が広すぎず、狭すぎないところ。古すぎず、新しすぎないところ。

**被災地・熊本へ**

私の生まれ育った故郷、これからもずっと大切な場所です。一緒に笑顔でがんばっていきましょう。

建築士の父の影響で  
ものづくりに興味

大学を決める際に、物理が好きだったことと、建築士だった父が自分の建てた家についてうれしそうに話していたのを思い出し、ものづくりに興味が湧いて工学部に入ることに決めました。また、阿蘇の風力発電が好きで、発電について不思議に思っていたため電気の学科を選択しました。

**いろんなことにチャレンジし  
得意・不得意がわかった学生時代**

勉強だけでなく部活、ボランティアや体育会本部の活動、家庭教師、飲食店のアルバイト、二輪免許取得や旅行など、時間をやりくりしていろんなことにチャレンジ。おかげで、自分の得意・苦手なことが分かるようになりました。また、体育会卓球部で、良い成績を残せるよう練習し、仲間たちと楽しく時に厳しく励ましあい過ぎたことが最高の思い出です。

**大学でもっと学びたかったと思うほど  
毎日が勉強と知識の習得の連続**

発電機、レーダーなど、船内の電気に関わることすべての担当をしています。「学校で学んだことは役に立たない」という言葉を学生時代にはよく聞きましたが、もっと学びたかったと思うくらいに日々勉強知識を習得しています。現在は巨大なタンカーの設計業務に携わっており、無事に建造されていくことを祈り、楽しみにしながらがんばっています。

**理学部** 入社時から希望していた  
自治体向けの営業に奮闘



**坪田 幸典**  
Kousuke TSUBOTA

KDDI株式会社(東京都)  
理学部理学科  
平成24年度卒  
大学院自然科学研究科博士前期課程理学専攻  
平成26年度修了

平成2年生まれ、長崎県佐世保市出身。長崎県立佐世保北高等学校卒業。平成27年4月にKDDI株式会社へ入社。休日は日本酒やワインのおいしいお店を飲み歩いてます。

**熊大のココがイイ！**

どんな時でも、全力でサポートしてもらえる環境。

**被災地・熊本へ**

辛い想い、悲しい想い、感謝の気持ち、そんな体験が皆さんを強くします。頑張ってください。

自分が支えられたから、  
子どもを支える先生になりたかった

夢は学校の先生になって、子どもたちが持つ夢や目標と一緒に叶える事でした。それは、勉強や部活を通して、目標に向かって努力する私自身をたくさん先生方に支えてもらったからです。「部活で試合に勝ちたい」や「あの大学に進学したい」など、どんな夢や目標も、常に最高のアドバイスをもらえたと思っています。

**最初は不安。でも、  
友人に囲まれた楽しい学生生活**

学科やサークル、アルバイトなどを通して、大切な友だちがたくさんできた大学生活でした。最初は一人暮らしなど、初めて体験することばかりで不安でいっぱいでしたが、友だちと食事したり、試験前に夜遅くまで勉強したり、長期休みに旅行に行ったりと、今となっては楽しい思い出ばかりです。

**自治体の住民サービス  
基盤からコンテンツまでコーディネート**

現在は入社面接の時から希望していた、自治体向けの営業を担当しています。スマートフォンやタブレットを用いて、自治体がどんな住民サービスを展開していくのか。そんな環境を基盤からコンテンツまでコーディネートして提供しています。昨今では地方創生や防災などがテーマとなっており、私は「教育」に注力して活動しています。

**医学部** 助教として教壇に立ち、  
アレルギーの研究も続行



**田邊 香野**  
Kano TANABE

熊本保健科学大学 保健科学部  
医学検査学科助教  
医学部保健学科検査技術科専攻  
平成21年度卒  
大学院保健学教育部博士前期課程  
平成23年度修了  
大学院保健学教育部保健学専攻博士後期課程  
平成26年度修了

昭和62年生まれ、熊本県出身。熊本県立大津高等学校卒業。作ることが好き。料理やお菓子も作り立ちを考えるとよりいっそう楽しくなります。スポーツは時々ボリダリングに行っています。

**熊大のココがイイ！**

自分次第でどんなことも変えていけるという事を教えてください！

**被災地・熊本へ**

私も皆さんと同じように被災しましたが、一緒にあらためて「日常」を作りましょう。

些細な出来事にも興味  
質問攻めで周りを困らせた幼い頃

幼いころから本が好きで些細な出来事も不思議でしがなく、質問の連続で周りを困らせていたかもしれません。高校生になる頃には自分で分からないことに挑んでいけるようになればと思っていました。生物が特に好きで私たちの身体を構成するさまざまなメカニズムが知れたらと思っていました。

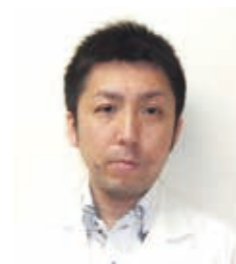
**講義、実験、ディスカッション  
忙しくも充実した大学時代**

学部の頃は講義に実習と忙しい日々を過ごし、臨床検査技師の免許を取得。免疫学講義がおもしろく、大学院に進学してからはそれが実験とディスカッションへと変化し、時には深夜まで続くようになりました。国際学会での発表は見識を大きく広げてくれた経験です。大学院時代のアルバイトでのさまざまな体験や全く異なるバックグラウンドの人々との出会いは大きな財産になりました。

**わかりやすく興味をもって  
もらえる講義にしたい**

現在は熊本保健科学大学で助教として勤務しています。講義や学生実習を行うのはもちろん、アレルギーのメカニズム解析の研究も継続して行っています。講義は免疫検査学や分子生物学などを担当しており、なじみ深い内容だからこそわかりやすく興味を持ってもらえる講義にしたいと精進しています。

**薬学部** 目の前の患者さんを支え、  
新薬を待つ期待にも応えたい



**三根 明**  
Akira MINE

医療法人プレストピア  
プレストピア宮崎病院  
薬剤部/治験管理室  
薬学部薬科学科  
平成18年度卒  
大学院薬学研究科博士前期課程  
薬学生化学専攻  
平成20年度修了

昭和58年生まれ、佐賀県佐賀市出身。佐賀県立佐賀西高等学校卒業。1年間の浪人生活を経て熊本大学へ入学。大学院博士前期課程修了後に医療法人プレストピアへ薬剤師として入社。現在は薬剤師兼CRCとして勤務中。

**熊大のココがイイ！**

生徒と真剣にむきあってくれる先生方や、大切な仲間と出会える学校です！

**被災地・熊本へ**

復興のために熊本大学だからできることがきっとあるはず。ともに頑張りましょう！

高校3年生で興味を持った  
化学が薬学部進学へのきっかけ

高校2年生までは特にこれという目標はなく、ただ漠然と大学へ進学し、祖父または叔父の会社を引き継ぎ社会人の仲間入りをするのだろうと思っていました。しかし、高校3年時に化学に興味を持ったことで薬学部を目指すようになりました。

**信頼できる仲間と出会えた  
学生生活**

バスケットボール部に加入していたこともあり、研究室に配属されるまでは体育館と友人宅を往復する毎日、合間を縫って講義、バイトという生活でした。研究室に配属後は研究センターの生活となりましたが、たくさんの人と出会い、信頼できる仲間と出会うことのできた学生生活でした。

**薬剤師、  
CRC(治験コーディネーター)両方の立場で  
病氣と闘う患者さんを支える**

薬剤師という立場では、目の前の乳癌と立ち向かう患者さんの手助けとなるように日々を過ごす一方で、CRCという立場では、目の前の患者さん以外にも、新薬や新しい治療法の確立を心待ちにしている未来の患者さんの期待に応えることができるよう日々励んでいます。



**REPORT** 博士課程教育リーディングプログラムが熊本地震に関する市民公開講座を開催!

10月8日(土)、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル健康生命科学バイオニア養成プログラム HIGO」は、熊本地震から6か月、東日本大震災から5年という節目の時期に、東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム(通称 G-Safety)と連携した市民公開講座を開催しました。講演会では、熊本大・東北大の5名の専門家が熊本地震のメカニズム、被災地への医療支援、熊本城の被災と復興の歴史、東日本大震災からの教訓、災害時にとるべき行動などを解説。大学関係者に加え、中学生、会社員、主婦など約100名が参加しました。また、別会場ではポスターを展示し、HIGOプログラム生が体験や学んだことを報告。市民の方々と共に、G-Safetyが開発したカードゲームなども行い、防災に対する意識を高めました。



減災アクションカードゲーム (G-Safety 開発) を行う参加者

**INFO** 留学生とMeet & Greetを開催します

熊本大学では、海外の協定校に在学する留学生に、短期の日本滞在を通じて日本の良さ、熊本の良さを経験する機会を提供し、将来の長期的な熊本、熊本大学への留学意欲を促進するために、2017 Spring Program(平成29年2月14日から10日間開催)を実施し、80名の留学生が参加する予定です。

当該プログラムにおいて、高校生に異なる文化、習慣を持つ留学生と国際交流体験をしてもらう目的で、「留学生と Meet & Greet」を開催します。

日本人学生サポーターが留学生と高校生の交流をサポートし、留学生が英語で Spring Programで勉強したことや母国の文化について高校生と質疑応答します。

【日時・場所】  
平成29年2月21日(火)17:30～18:30  
熊本大学グローバル教育カレッジ棟  
【募集対象者・人数】高校生 80名  
【参加申込み期限】平成29年2月17日(金)  
【問い合わせ及び申込先】  
熊本大学グローバル教育カレッジ  
TEL: 096-342-2091  
E-mail: gji-ryugaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

**REPORT** 小川久雄名誉教授が「日本医師会医学賞」を受賞しました

小川久雄名誉教授が、「日本医師会医学賞」を受賞し、11月1日(火)、授賞式と記念講演が日医会館大講堂で盛大に開催されました。

「日本医師会医学賞」は毎年1回、基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ計3名に授与されるもので、全国の大学医学部長、大学附属病院長らから各部門それぞれ1名以内の推薦を受け、選ばれます。本学からは、忽那将愛名誉教授、林秀男名誉教授、高月清名誉教授、松田一郎名誉教授以来5人目の快挙でした。

小川名誉教授は国際的にも評価されている循環器内科医で、日本における循環器臨床研究の第一人者です。1994年から、当時日本ではほとんど行われていなかった大規模無作

為化多施設共同試験を開始し、多くのことを明らかにしてきました。

今回の受賞は、これまで行ってきた「日本における循環器疾患治療のエビデンス」の成果が認められ、医学上重要な業績をあげたことが評価されたもので、講演の参加者からも高い賞賛が寄せられました。



**REPORT** 教育学部 松永拓己准教授が第70回記念 NIKI2016 二紀展にて宮本賞を受賞しました

教育学部の松永拓己准教授が、10月12日から24日まで、国立新美術館(東京・六本木)で開催された第70回記念 NIKI2016 二紀展において、本展覧会の創立委員の名を冠した宮本賞※を受賞しました。(※宮本賞は本展覧会の創立委員である宮本三郎(芸術院会員)故理事長を顕彰し名を冠した賞です)

松永准教授の受賞作品は「鳳凰花舞図 resurrection(復活)」というF150号(227cm×182cm)の大作であり、重厚な作り込みと輝くような絵世界が特徴的な現代美術作品です。

この作品は、この後、巡回展で名古屋(愛知県美術館)、京都(京都市美術館)、広島(広島県立美術館)、大分(大分県立美術館)にて展示されます。



**REPORT** 第4、5回のサイエンスカフェを開催しました

10月1日(土)と11月3日(木・祝)に、熊本大学の人文社会科学系国際共同研究拠点の活動の一環として、URA 推進室主催により、研究者と一般の方が、気軽に研究の話題について自由に語り合う「サイエンスカフェ」を開催しました。

第4回は、私たちが直面する問題の解決策を探る「ポジティブ・ディビアンズ」という考え方を、政策創造研究教育センターの河村洋子准教授が解説し、第5回では社



グループでの話し合いを全体の場で共有する参加者の方々

会文化科学研究科の石原明子准教授がファシリテータとなり、熊本地震後の復興のまちづくりを参加者全員で対話する場をもちました。参加者からは、「大学の研究の中に、自分の生活に役立つ研究をしている先生がいるという発見があった。」「参加型のテーマでためになった。」「また別の機会にもっと学びたい。」「熊本のこれからの大変有意義な時間、学びでした。」などの感想が寄せられました。



ファシリテータの石原准教授とともに振り返り活動

**REPORT** 東京オフィスセミナー・関西オフィスセミナーを開催しました

首都圏と関西圏の一般の方を対象に、熊本大学への理解を深めていただくため、9月25日(日)に「東京オフィスセミナー」を、9月10日(土)に「関西オフィスセミナー」を開催しました。当日は多数の参加者を迎え、「江戸時代の裁きと仕置きー「犯科帳」」と熊本藩永青文庫史料からひも解く」及び「漱石とシェイクスピア」のテーマで講演が行われ、参加者からの質問に講師が答える



東京オフィスセミナー会場の様子

など、盛会のうちに幕を閉じました。熊本大学は、情報発信、企業との連携等をもって、熊本大学の教育研究の進展及び産学官連携の推進を図るため、県外拠点として、東京と大阪にそれぞれオフィスを設置しています。また、本セミナーは、毎年テーマを変え開催していますので、次回も多くの方々のご参加をお待ちしています。



関西オフィスセミナー会場の様子

**REPORT** 熊本大学医学部創立120周年記念式典を開催しました

熊本大学医学部が創立120年を迎え、11月5日(土)に、「肥後医育ミュージアム」開館式、記念式典および記念講演会を開催しました。

熊本大学医学部は、明治29年に創設された私立熊本医学校を母体として、私立熊本医学専門学校、熊本県立熊本医科大学、官立熊本医科大学を経て、昭和24年に現在の熊本大学医学部となりました。

本荘地区で行われた開館式では、名誉教授をはじめ、肥後医育ミュージアム関係者や大学教職員らが参列し、原田学長、西村医学部長、二塚熊吉会会長、坂田学生会長によるテープカットが行われました。ミュージアムには北里柴三郎も学んだ古城医学校時代も含む、

多くの貴重な展示物が公開されております。皆様方には是非とも、お立ち寄りください。

開館式終了後、市内ホテルにおいて、記念式典および記念講演会が行われ、日本医学会会長の高久史磨先生に「わが国の医学研究の方向性」について、ご講演を頂きました。



**REPORT** 「熊本大学教育学部附属幼稚園創立100周年記念行事」を開催しました スローガン ～笑顔広がる100周年 未来へつなぐ附幼の和～

熊本大学教育学部附属幼稚園が創立100年を迎え、11月27日(日)に、第一部として附属幼稚園にてお祝いする会とオープンスクール、第二部として、ホテル日航熊本にて記念式典と懇親会が開催されました。

園内で行われた100周年をお祝いする会では、八幡英幸教育学部長をはじめ教育学部や各附属学校からの来賓、卒園生等が参列しました。園児たちは、この日のために練習した呼びかけや歌を披露。園児と卒園生と一緒に童謡を歌い、楽しく、微笑ましいお祝いの会となりました。最後に、昭和39年に制定された園歌を全員で合唱し、「附幼の和」を確か

め合いました。附属幼稚園は、熊本女子師範学校代用附属の壺川幼稚園として、大正5年5月に設立。その後、昭和24年、熊本大学熊本師範学校附属幼稚園となり、昭和26年には熊本大学教育学部附属幼稚園と改称しています。



**REPORT** 平成28年度熊本大学 卒業生表彰式を行いました

11月12日(土)のホームカミングデー当日、平成28年度熊本大学卒業生表彰を行いました。

この卒業生表彰は、平成24年度からスタートした表彰制度で、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績があった本学の卒業生を、各学部等同窓会からの推薦に基づき表彰するものです。

第5回となる今回受賞となったのは、武夫原会(文・法学部同窓会)5名、教育学部同窓会3名、理学部同窓会1名、熊杏会(医学部同窓会)1名、薬学部同窓会2名、工業会(工学部同窓会)5名、医学部保健学科同窓会2名の計19名で、それぞれの分野で顕著な功績を挙げられた皆様や、同窓会活動にご尽力いただいた皆様です。表彰式においては、原田学長から祝辞が述べられました。



**REPORT** 「Job Study with OWN2016」を開催しました

11月26日(土)、キャリア支援課公認の就活サークル「OWN WORK NOTE」主催で、キャリア啓発セミナー「Job Study with OWN 2016」を開催しました。

このセミナーは、6企業(コクヨ、帝人、凸版印刷、古河電工、ミスノ、ローソン)の人事担当者の協力のもと、「働くこと」について本音で語り合うことを目的に行っています。

当日は、本学学生・院生71名が参加し、参加者からの質問を企業の人事担当者が回答する形式のパネルディスカッションや、2つの企業の仕事を体感できるグループワークを行いました。

参加者からは「働くこと」が楽しく思えてきました。「ワークでは実際の仕事に近い経験ができて、「働く」イメージがより強くなった」等の感想が寄せられました。



「働く」ってどういうこと? 真剣に耳を傾ける熊大生!



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№36 (平成28年8月1日~平成28年10月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約9億4,87万円(平成28年10月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、平成28年の熊本地震復興事業基金へのお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生へ対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成28年8月1日から平成28年10月31日までの間に入金を確認させていただきました個人607名、36法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を含め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様のご更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ ( ) 内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

|          |                        |             |              |             |                               |             |
|----------|------------------------|-------------|--------------|-------------|-------------------------------|-------------|
| 【100万円】  | 崎元 達郎 (600)            | 芳賀 義雄 (505) |              |             |                               |             |
| 【30万円】   | 山田 和彦 (30)             |             |              |             |                               |             |
| 【20万円】   | 加隈 徳昭 (20)             | 菊川 勝行 (22)  | 菊池 健 (250.4) | 佐々木 泰雄 (20) |                               |             |
| 【16万7千円】 | 中央寮歌祭2016 参加者有志 (16.7) |             |              |             |                               |             |
| 【10万円】   | 生田 翔 (25)              | 上塚 昭逸 (17)  | 大坪 修介 (10.5) | 小原 路子 (10)  | 三根 一乗 (10)                    |             |
| 【5万円以下】  | 荒木 照之 (3)              | 飯田 宏 (1)    | 宇田 博 (5.5)   | 内野 達朗 (0.5) | 大橋 茂博 (1)                     | 岡村 紘生 (10)  |
|          | 小貫 治朗 (6.5)            | 加来 政博 (1.5) | 門葉 保 (25)    | 兼田 桂一郎 (1)  | 神崎 芳郎 (12)                    | 古賀 博 (3.5)  |
|          | 佐藤 友治 (11)             | 島田 廉夫 (113) | 田口 和治 (2)    | 田阪 耕一 (1)   | 田中 幸子 (5)                     | 田中 正比古 (5)  |
|          | 平野 孝夫 (1)              | 藤崎 威 (5)    | 牧野 耿介 (3)    | 牧野 良造 (24)  | 山本 博伸 (10.5)                  | 横山 依奈 (0.5) |
|          | 医療法人社団雄山会山口クリニック (5)   |             | 北の都会 月例会 (5) |             | 熊本大学工学部生産機械昭和47年入学同窓生有志一同 (5) |             |

<熊本地震復興事業基金>

|          |                      |                |            |            |                  |  |
|----------|----------------------|----------------|------------|------------|------------------|--|
| 【3億円】    | 株式会社TSK (4億円)        |                |            |            |                  |  |
| 【500万円】  | トーカロ株式会社 (500)       |                |            |            |                  |  |
| 【100万円】  | 河崎 与一郎 (102)         |                |            |            |                  |  |
| 【54万5千円】 | イー・アンド・エム株式会社 (54.5) |                |            |            |                  |  |
| 【30万円】   | 熊本大学校友会 (60)         |                |            |            |                  |  |
| 【26万円】   | 中国熊本大学留学生有志一同 (26)   |                |            |            |                  |  |
| 【25万円】   | ウィーン大学日本学研究所 (25)    |                |            |            |                  |  |
| 【20万円】   | 滝沢 勇一 (40)           | 田中 征治 (80)     | 松田 晃彦 (20) |            |                  |  |
| 【14万6千円】 | 薬学部平成4年度卒業生有志 (14.6) |                |            |            |                  |  |
| 【10万円】   | 桑野 幸徳 (512)          | 熊本大学中国校友会 (10) |            |            |                  |  |
| 【5万円以下】  | 館 美智子 (5)            | 松尾 武 (1)       | 森山 徹 (2)   | 八重 恵美子 (1) | 株式会社 三和測量設計社 (5) |  |
|          | 熊本大学関西武夫原会 (51.2)    |                | せき音楽事務所(1) |            |                  |  |

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※ [ ] 内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

|               |           |               |                   |             |            |            |                      |                |
|---------------|-----------|---------------|-------------------|-------------|------------|------------|----------------------|----------------|
| 安宅 康          | 東 泰       | 荒川 四郎         | 荒川 孝成 [3]         | 池田 照子 [2]   | 伊佐 二久 [14] | 石本 清八      | 泉 寛容                 | 伊丹 滋人          |
| 一安 幸治 [3]     | 上田 厚      | 占部 篤道         | 江上 経雄             | 江崎 忠        | 衛藤 光明 [16] | 大久保 弘人 [2] | 大久保 正博 [2]           | 太田 英文          |
| 大坪 和子         | 大林 昭      | 岡崎 廣行 [4]     | 岡崎 美知治 [8]        | 緒方 雄輔 [9]   | 岡田 洋一 [3]  | 岡野 達郎      | 岡部 紘明 [4]            | 岡村 悟志          |
| 尾崎 輝久         | 鬼塚 猷子 [3] | 小野 俊一 [2]     | 桂木 猛              | 金尾 敏明       | 神野 崇       | 川崎 涉一郎     | 菅 寿美                 | 菊川 宏也 [2]      |
| 木崎原 智仁        | 木崎原 直剛    | 北島 武浩         | 北島 美則 [8]         | 木下 幸子       | 楠田 久男 [2]  | 工藤 智昭 [3]  | 工藤 義二                | 久保田 和彦 [2]     |
| 胡桃坂 仁志 [2]    | 小出 力      | 小出 義輝         | 古閑 博明             | 小城 隆        | 小林 新一 [2]  | 小林 孝史      | 近藤 繁美 [7]            | 坂田 邦弘 [2]      |
| 坂田 光子         | 坂本 芳文 [2] | 佐藤 芳嗣         | 清水 洋              | 下川 弘        | 城 良孝       | 白川 靖博      | 末吉 栄志                | 管 信俊           |
| 須加原 一博 [2]    | 杉村 継治 [2] | 鈴木 保子         | 千住 覚 [2]          | 高木 克公 [3]   | 高橋 九美雄     | 田口 龍治      | 財部 由美子               | 田代 満夫          |
| 田中 久夫 [2]     | 田中 博幸     | 田中 幸夫         | 田中 祥視             | 谷崎 義治       | 千歳 久       | 辻ヶ堂 紀子     | 角田 勝則 [2]            | 鶴田 克明          |
| 弟子丸 直美        | 寺園 方晴     | 塘 正弘 [5]      | 中川 盈              | 中島 誠 [7]    | 永田 昌知 [5]  | 中角 英二      | 仲西 正史                | 中野 義弘 [2]      |
| 中村 広茂         | 中山 大介     | 永山 洋子         | 西川 司              | 西村 正人       | 仁禮 尚道      | 野口 雅章 [7]  | 畠中 弘志                | 林 茂 [2]        |
| 林 美智子         | 林 良樹      | 日永田 義治        | 久永 悦子             | 日高 絹子       | 平井 道子      | 平岡 武久 [2]  | 福島 幹郎 [7]            | 藤田 公市          |
| 藤田 博久         | 藤村 正子     | 二塚 信 [10]     | 古川 稔              | 別府 トシ子 [10] | 堀野 敬 [7]   | 前田 芳男      | 眞崎 英裕                | 町田 二郎          |
| 松尾 敏之 [7]     | 松岡 照彦     | 町元 里香         | 溝上 章志 [6]         | 溝口 寿子 [5]   | 峯 泰昌 [2]   | 宮原 二郎 [2]  | 森永 秀和 [2]            | 矢崎 暁 [2]       |
| 弥永 典宏         | 柳田 敏孝 [6] | 矢野 太陸         | 山内 昌輝             | 山口 公義 [2]   | 山口 博 [7]   | 山崎 幸子      | 山本 栄祐 [3]            | 吉田 孝利          |
| 吉田 哲雄         | 吉田 結彬     | 良永 信男         | 吉野 直子 [2]         | 和光 信一       | 和田 敏哉      | 渡辺 達人 [2]  | Narong Thanankul [3] | 医療法人正木産婦人科 [2] |
| 一般社団法人城北会 [3] | 一般社団法人秋津会 | 徳田脳神経外科病院 [7] | 医療法人社団永芳会永芳医院 [3] |             |            |            |                      |                |
| 医療法人吉野眼科クリニック | 株式会社グレイス  |               |                   |             |            |            |                      | 熊杏会 筑豊支部       |

<熊本地震復興事業基金>

|            |           |           |           |        |                  |        |           |                |
|------------|-----------|-----------|-----------|--------|------------------|--------|-----------|----------------|
| 荒木 尚       | 池崎 健介     | 一安 幸治 [3] | 岩崎 一郎 [2] | 櫻園 茂   | 蛭原 健治            | 大山 まゆみ | 岡 誠一      | 岡島 寛           |
| 加来 雅史 [2]  | 勝木 淳      | 金子 順明     | 上川畑 剛     | 川島 佳奈子 | 岸本 直樹            | 見城 慶和  | 小林 新一 [2] | 小山 恒男          |
| 澤田 敬       | 篠田 宏      | 瀬戸川 雄人    | 高月 清      | 高波 徹哉  | 田口 浩継            | 棚治 隆史  | 谷口 隆義     | 谷澤 幸生          |
| 為田 正人      | 月岡 信隆 [2] | 中谷 春香     | 波多野 恭行    | 原田 一恒  | 春山 康久            | 平川 芳明  | 深澤 博昭     | 福島 理仁          |
| 藤野 智子 [2]  | 古川 雄三     | 松尾 勲      | 松永 司 [2]  | 松本 光正  | 溝上 章志 [6]        | 武藤 達雄  | 森 功次      | 森永 秀和 [2]      |
| 守屋 乾司      | 安田 尚恵     | 吉永 隆治     | アッツィ合会    |        | 愛媛県立松山東高等学校PTA一同 |        |           | 株式会社キューネット [2] |
| 熊本大学東京武夫原会 |           | 熊本大学武夫原会  | ・名古屋武夫原会  | 福岡武夫原会 |                  |        |           |                |

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 373名、10法人・団体等

REPORT

新庄鷹義基金感謝状贈呈式を行いました

富士ダイス株式会社・創業者故新庄鷹義様のご令室新庄初枝様が代表を務められる資産管理会社 株式会社TSK様から、新庄鷹義様の人材育成への熱意とご遺志を継承し、平成28年熊本地震により被災した本学学生に対し多額のご寄付を賜りました。この寄付金は、「新庄鷹義基金」と位置づけられ、11月10日(木)に感謝状贈呈式が執り行われました。



記念プレート除幕の様子

REPORT

第5回熊本大学関西連合同窓会を開催しました

第5回熊本大学関西連合同窓会(本島昭男会長)が、12月3日(土)太閤園(大阪市)において、関西地区在住の同窓生など222名の参加を得て開催されました。

当日は、前半に総会・講演会が、後半に交流会が行われ、総会・講演会では、本島昭男会長、二塚信熊本大学同窓会連合会会長による挨拶の後、来賓紹介、平成27、28年度の卒業生表彰受賞者紹介、役員等紹介が行われました。

講演会では、原田学長から「平成28年(2016年)熊本地震 被害状況と復旧に向けた対応状況」と題して、熊本大学の被災状況及び復興に向けた取り組みについての報告が行われました。

また、松岡浩史熊本大学文学部准教授から「漱石とシェイクスピア」と題し、夏目漱石来熊120周年、生誕150周年にちなんだ特別講演が行われました。

交流会では、今村遼平東京連合同窓会会長、安田宏正九州連合同窓会会長から祝辞が述べられた後、桑野幸徳関西連合同窓会名誉会長の発言で乾杯が行われ、参加者は賑やかに世代や学部を超えた交流を楽しみました。

会の中では、現役学生である西本徹広援助団長から「巻頭言」と「五高寮歌」が披露されました。

閉会に際しては、西村泰関西連合同窓会副会長からの挨拶で謝意が述べられ、盛況のうちに会は終了となりました。



挨拶をする本島会長

INFO

「平成28年度 熊本大学教育学部附属特別支援学校 第30回研究発表会」を開催します

今年度の研究テーマ「キャリア発達を支援する教育課程及び就労支援の充実～卒業10年後を目標に見据えた一貫した教育支援の追求～」についての実践研究等の成果を公開し、地域の教育力向上へ貢献するものです。

【開催日時・場所】

平成29年2月18日(土)

熊本大学教育学部附属特別支援学校

【対象・参加費】

学校の教員、保護者等どなたでもご参加いただけます。(参加費無料)

【申込方法】

二次案内に同封の申込用紙若しくはホームページ(後日掲載)から申込用紙をダウンロードして FAXしてください(2月3日締切)。

【問い合わせ先】

〒860-0862

熊本中央区

黒髪5丁目

17番1号

TEL:

096-342-2953

FAX:

096-342-2950

E-mail:

yougo@educ.kumamoto-u.ac.jp

担当者: 教頭(税田)

【URL】

http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/

~futoku/index.html



REPORT

INFO

薬草パーク観察会を開催しています

熊本大学薬学部薬用資源エコフロンティアセンター(薬用植物園)では、薬用植物に関する講演、および植物観察会を行っています。このイベントは、一般の方々に薬用植物について触れ合ってもらえることはもちろん、薬学部で現在取り組んでいる「薬草パーク構想」について知っていただく機会です。

10月22日(土)、第2回薬草パーク観察会を開催し、約50名の参加者に来校いただきました。前半は「薬用植物の機能性成分について」のテーマで、デブコタ・ハリ特任助教授の講演を行い、後半は園内で観察会を行いました。今後も継続する予定ですので、お気軽にご参加ください。

【次回開催日時・場所】

平成29年3月18日(土)

13:00~16:00(受付・開場 12:00)

熊本大学薬学部総合研究棟2F多目的ホール(熊本市中央区大江本町5-1)

【参加対象者・参加費】

一般の方、薬剤師、学生など(事前申込み不要・参加費無料)

【問い合わせ先(E-mail)】

devkotah@kumamoto-u.ac.jp(デブコタ ハリ)

wata-m@kumamoto-u.ac.jp(渡邊将人)

【URL】http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/Labs/eco-frontier/event\_seminar/park/



INFO

平成28年度 熊本大学政創研公共政策コンペを開催します

第8回目の開催となる今年度のテーマは「熊本のこれからを、私たちが変える！」。テーマに沿って出された政策提言を審査し、優秀なものを表彰します。

【開催日時・場所】

平成29年1月21日(土) 13:00~17:00

熊本大学工学部百周年記念館

【参加対象者・参加費】

興味のある方ならどなたでも(事前申込み不要・参加費無料)

【問い合わせ先】

熊本大学政策創造研究教育センター

TEL: 096-342-2044

E-mail: seisakucompe@gmail.com

【URL】http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp



# 知の至宝

## 生徒募集木札 (五高記念館所蔵)

この2枚はそれぞれ明治22(1889)年6月と明治27(1894)年5月に生徒募集を告知するために掲げられた木札である。一見、同じことが書かれているようだが実は大きな違いがある。

試験日が、22年の9月1日から27年の7月7日へと2ヶ月近く早まっているのは22年8月に古城の仮校舎から<sup>あきた</sup>黒髪村(現在地の熊本市中央区黒髪)への移転が行われたためとも考えられるが、その他に予科、補充科の募集だったものが、明治25(1892)年から26(1893)年にかけて補充科の募集が打ち切れ、代わって尋常中学校教育の充実に伴い本科生の募集が始まった。入学試験の学科とその程度、細目、参考用書名などを一冊にまとめた試験要項も用意されている。

また、27年4月に入学試験料の徴収が決定し、本科1円、予科50銭の受験料が必要になった。

2枚の木札には、わずか5年の隔たりしかないが、手探りで始まった入学試験が現在に近い形に整ったと考えられる。我が国の高等教育の黎明期を語る貴重な資料である。

文 藤本 秀子(五高記念館)

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。

